

復興てらこ屋

実施
年度

2011

2012

2013

2014

2015

2016

2017

● 活動のきっかけ

仮設住宅に入居し当面の生活が落ち着いた頃、なかなか見えてこない町の復興計画や町の将来像について、不安の声が多く聞かれるようになりました。このような声を受けて2011年12月から、仮設住宅の集会所などを会場として「復興てらこ屋」を定期的に開催しました。

当初は、町の復興計画がまだ定まっていない時期だったため、中越・神戸といった過去の被災地における復興の経験を聞く会や、町民どうして被災体験や避難生活について語り合う会、ボランティアの学生に体験を伝える会といったように、多様な形態をとりながら、互いに想いを共有し、震災体験を町民主体のまちづくりへ繋いでゆくための学びの場として「開校」していました。

その後、復興計画が定まり、防潮堤や河川堤防、道路といった個別の復興事業が進み始めると、町民が正確な情報を持ち、考え、議論する場を持つことが必要となってきました。行政（国・県・町）の担当者から直接説明を受け、町民どうして話し合い、意見を出していく、参加の場作りを意識しながら企画を進めました。

● 活動内容

①過去の被災地の経験を学ぶ（2011年度～2012年度）



「中越地震を乗り越えた男たちからのメッセージ」
2011.12.4 平成の森会議室



「神戸の復興に学ぶ」
2012.3.1 南方仮設住宅第1集会所



「復興住宅・復興公営住宅を考えよう！
～中越の事例から～」
2012.4.19 志津川中学校仮設住宅集会所

②町民どうして、復興への想いを共有する（2011年度～2013年度）

それぞれの家庭の自慢の漬物を持ち寄ったり、地域の学生や外部支援者の皆さんと連携したりしながら、自分たちの震災体験や町の復興への想いを語り合う会として開催しました。



「大震災を語る～宮城大学の学生さんに語り継ぐ」
2012.1.8 南方仮設住宅第1集会所



復興に向け「今気になること」
2012.1.18 平成の森 会議室



復興まちづくりフォーラム 震災復興まちづくり町民会議の提言を実現するために
2012.4.21 ホテル観洋



南三陸町ワークショップ 椿一花咲く町をつくろう
2012.8.4 南方仮設住宅第1集会所



復興町民会議のその後を語る会
2013.7.13 上山八幡宮社務所

③伊里前復興てらこ屋（2012年度～2013年度）

伊里前地区で進められていた防潮堤・河川堤防・道路等の整備計画について、町民側の協議の受け皿がなかったこともあり、情報提供が十分には行われていませんでした。その結果、誤った情報が噂として広まり、それが更に地域の不安を生む悪循環になっていました。

これらの不安を払拭し、各分野の復興事業に対して町民が正確な情報を持ち、考え、議論する場を持つことが、南三陸の歴史・風土に根ざした復興を成し遂げるために必要であるとの考えから、当会が中心となり、県、町、すばらしい歌津をつくる協議会、伊里前まちづくり協議会、宮城大学、東北圏地域づくりコンソーシアム等の多様な主体と連携し、以下の3点を目的にした“復興てらこ屋”を合計4回開催しました。

- (1) 国・県・町の担当者に事業計画について説明頂き、計画されている事業について参加者が正しく理解する。
- (2) 事業計画を踏まえて、参加者自身が将来のまちのあり方を考え意見交換を行う機会をつくる。
- (3) 意見交換を踏まえ、今後のまちづくりの進め方を考え、行政と共有する。



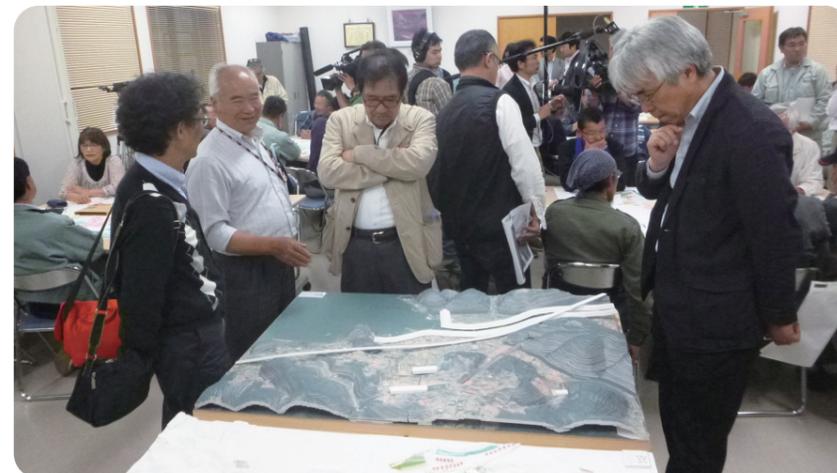
伊里前川の河川堤防について考えよう
2012.11.8 歌津総合支所2階会議室



伊里前地区の防潮堤について考えよう
2012.12.14 歌津総合支所2階会議室



伊里前地区の県道について考えよう
2013.2.21 歌津総合支所2階会議室



どうする伊里前？どうなる伊里前？
模型を見ながら話し合おう
2013.6.4 歌津総合支所2階会議室

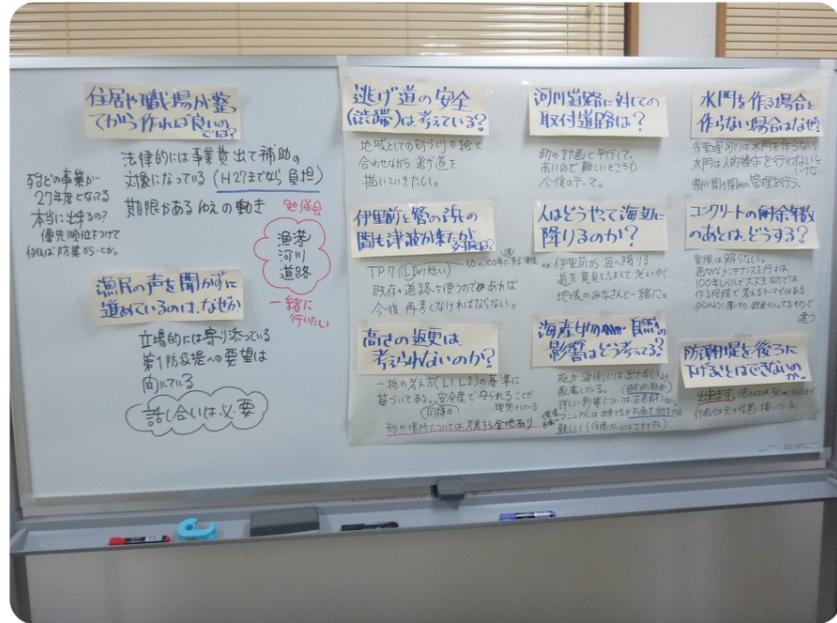
毎回、それぞれの事業担当の職員の方（国、県、町）にお越しいただき、直接、事業計画の説明をいただきました。その内容を踏まえて参加者がグループに分かれて意見交換、出された意見はその場で発表するとともに、詳細な記録に整理し、後日、町民・行政双方に共有するプロセスを重ねました。



事業担当者からの説明の様子
2012.11.8（伊里前川河川堤防）



グループ毎の話し合い結果の発表
2013.6.4（模型を見ながら話し合おう）



意見のとりまとめ（当日）
2012.12.14（伊里前地区防潮堤）

後日、情報共有した資料 2013.6.4（模型を見ながら話し合おう）

復興 たらこ屋 第4回 復興たらこ屋（伊里前地区）『どうなる伊里前？ どうする伊里前？ 模型を見ながら話し合おう』 2013.6.4 歌津総合支所会議室

6月4日（火）に、第4回復興たらこ屋（伊里前地区）『どうなる伊里前？ どうする伊里前？ 模型を見ながら話し合おう』を開催し、25名の伊里前地区の皆さんにお集まり頂きました。伊里前地区の復興について、既に提示されている計画案を模型を通じて確認し、住民が既に検討している案を共有した上で、今後どうなっていくのか、どのように進めていけばいいのかについて、住民同士で話し合い、活発な意見交換が行われました。今後は、これからの伊里前地区のために、「伊里前まちづくり協議会」が中心となって議論し、意見集約を行いながら進めていくことになりました。



1. 模型で伊里前の復興計画案を確認

現在提示されている計画案に基づき、宮城大学平岡研究室が作成した模型を全体で確認し、防潮堤・河川堤防・国道の位置関係を共有しました。

- 防潮堤：高さ8.7m。法面はコンクリート。
- 河川堤防：高さ8.7m。法面はコンクリート。
- 国道：現在の仮の国道とほぼ同じ位置。河川堤防を越える付近で高さ約11m。

2. 住民が既に考えている案の共有

これからの伊里前地区について既に具体的検討を実施している、伊里前商店会と地元若手有志より、それぞれ代表者が、検討内容について、資料を配布し全体に説明を行いました。



3. グループで意見交換

5グループに分かれて、進行役（兼記録役）を中心に話し合いを行いました。約30分間の意見交換実施後、グループをシャッフルして再度20分間、話し合いを行いました。全てのグループで、活発な意見交換が行われました。

意見交換の内容：①率直な感想 ②伊里前がこうなってほしい ③これからの進め方



4. 意見交換の内容を全体で共有

全5グループの進行役から、全体に向けて、意見交換の内容について共有を行いました。出された意見は、裏面『グループでの話し合い（まとめ）』をご覧ください。



5. 総評（南三陸町役場建設課 三浦孝課長）

住民の皆さんのそれぞれの想いを聴かせて頂いた。貴重な意見を、具体的にどのように形にしていけるか課題を突き付けられたと感じている。志津川のまちづくり協議会が、1年間の話し合いを経て、公園部会を中心にまちづくりのベクトル（方向性）を出し、事業担当部署を含めた話し合いができるようになってきている。伊里前でも、住民の意見を集約し今後の方向性を決めていく組織が必要である。既に伊里前には、「伊里前まちづくり協議会」がある。「伊里前まちづくり協議会」を窓口として、伊里前のまちづくりについて住民で議論し、方向性を出して頂きたい。

6. 開会の挨拶（すばらしい歌津をつくる協議会 小野寺寛会長）

周辺の山間部や沿岸部の集落から次男・三男が集まり約320年前に伊里前地区を形成したと言われている。それぞれ実家の農産物・海産物を加工し流通させることで伊里前の町を作ってきた。これからの復興でも、どうすれば伊里前の市街地に人・物・金・情報を集め、関わる人が幸せになれるのか、また、歌津全体や高台移転先も含めて、どこにどのような町の機能を置くべきかという視点で、議論を深めていく必要がある。伊里前が「一生懸命この町をなんとかしたい」という思いに大きな差はないと感じた。漁師、商売人、農家、勤め人が手を組み、発展させられる町を作る必要がある。今回の復興たらこ屋で、その1歩目、2歩目を踏み出すことができた。伊里前まちづくり協議会が中心となって議論していく中で、他地域の視点などは、すばらしい歌津をつくる協議会で補っていききたい。他人事ではなく、自分のことと認識して、これからもまちづくりに参加してほしい。

▽主催 復興みなさん会、東三陸地域づくりコンソーシアム、宮城大学地域復興事業部
▽共催 伊里前まちづくり協議会、すばらしい歌津をつくる協議会
▽協力 宮城大学平岡研究室（模型制作・提供） ※記載内容に関するお問い合わせ 及川清希（090-4227-0608）

『どうなる伊里前？ どうする伊里前？ 模型を見ながら話し合おう』
＜グループでの話し合い（まとめ）＞ 2013年6月4日 参加住民:25名

<p>率直な感想</p> <p>■模型について</p> <ul style="list-style-type: none"> 模型がビジュアル的で良かった。 町全体の大きさがわかる模型が見たい。 橋、管の底を含めた町全体の図面があれば良い。 高台移転の位置を模型に示してほしい。 模型の高さや位置関係がきちっとしていない。 <p>■現在の計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 模型を見て、国道から海が見えないことがわかった。 防潮堤と国道と堤防で終わる。何が主体かわからない。 生活道路が示されないでイメージできない。 海への行き方がわからない。 この広さに全部は入れられないのではないのか？ 防潮堤と国道の間の谷間（ぼ地）をなくしてほしい。 今の計画ではふるさとなくなってしまふ。 <p>■紹介された住民案について</p> <p>＜伊里前商店会の案について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊里前商店会が紹介した図面を進めほしい。 商店街としては、防潮堤は必要である。 伊里前だけでなく管の底、井沢が1つとなり、まちづくりをした方が良い。町全体を考えてほしい。 商店も大切だが住民の利便性も考えてほしい。 子供が自然と触れ合える場が必要だ。 <p>＜地元若手有志の案について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元若手有志の案が全体を考慮している。 片側のみ河川堤防では許可が下りるのだろうか？ 防潮堤の高さが5.5mで本当に安全なのだろうか？ 河川堤防の高さがわからない。 若者の案で減るスペースは必要場所だ。 	<p>ふるさと伊里前への思い。こうなったらいいな。</p> <p>■ふるさとへの愛着</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供たちがまた戻って来るようなまちづくりをしたい。 子供たちが誇りに思える町をつくりたい。 ふるさは捨てられない。 自然に恵まれた元の伊里前になってほしい。 若い人たちが残れるような魅力的な町にしたい。 <p>■海・川・自然との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然の地形を活かして復興すべきだ。 浜を築いてほしい。 磯場を確保する必要がある。 直接海に入る場所をつくるべきだ。 遊歩道をつくるなど、海に自由に行けるようにする。 町や家から海が見えるの心配だ。 魚竜館の前付近にふれあいの港をつくれなさい。 アザリ掘りなど子供が自然と触れ合える場が必要だ。 川とふれあうまちづくりが未来に必要である。 高台移転後も緑や木を見て話ができる環境がほしい。 <p>■子育て、教育環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供たちの遊び場所を確保する必要がある。 商店街は高台、インター、平成の森も踏まえて、国道からお客車を引入れることを考えている。 子供たちの為に海とふれあいをさせた。 学校から海と山が同時に見えるのは強みである。 海と家と学校の近さは伊里前の魅力である。子供が自由に来れるようにしたい。 <p>■コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> 四季折々のイベントできるようにすれば良い。 ここに生きている人は花火をあげたいと思っている。 昔ながらの行事を復活させたい。 	<p>■安心安全な、まち</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心安全な町に復興すべきが基本的な考えである。 住民の安全、生命、財産を守ることが第一である。 100年に1度でも、すぐに次の津波が来るかもしれない。 通学が安全に出来るような道路にしてほしい。 沿岸部の埋立ては危険で、不安だ。高台に地盤下しているのが危険で、不安だ。高台に地盤下しているのが危険で、不安だ。 <p>■漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> 海から収入を得て来た漁業の町である。 後継者をうまく育てる必要がある。 漁師が頑張れるまちづくりをすべきである。 護岸をつける前の船着き場構想を実現させたい。 陸だけでなく、漁港の整備に早く手を付けてほしい。 整備された道路から人を呼び込む方法を考える。 漁業種とのかみも考慮して考えるべき。 漁業種とのかみも考慮して、付加価値をつけた生産、販売を考えて計画を考えるべき。 <p>■観光、雇用の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 人が集まればお金が動くので、観光にもっと力を入れるべきである。 ストロー現象にさせず、都会の人を来通させない。 三陸道開通後に歌津ICで降りてもらおう方法を考える。 整備された道路から人を呼び込む方法を考える。 若者の働く場所もつくりたい。 雇用（収入）を確保し、人口流出を防ぐ。 地域に根付く産業誘致の必要がある。 震災対策が終わった時のことを考えて進める。 <p>＜観光に活かすこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光と漁業を結びつける。漁師民有をつくる。体験漁業、フィッシングパークを整備する。釣り船を出し、釣った魚を食べられるようにする。 地元料理、珍しい食べ方を観光客に知ってもらい、わかめしやぶ、そば打ち等。 自然の魅力を生かして、グリーンツーリズムで人を呼ぶ。 時間をかかると商工として持ちこたえられない。 商店街としては、防潮堤は必要である。 買上げして町有地となれば商店街や駐車場を拡大する。
---	---	--

防潮堤、河川堤防、道路について

<p>■防潮堤・河川堤防について</p> <p>＜防潮堤の必要性について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 防波堤だけでなく、遊歩道があれば十分。 防潮堤で、守るべきものを守る必要がある。 商店街としては、防潮堤は必要だが、高さは要検討。 防潮堤を早く作ることを優先すべきだ。 東風の浜（こちの浜）付近で防潮堤が切れている場所はどうするか？ 防潮堤には穴を開けるべきではない。 <p>＜高さ8.7mについて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 高さ8.7mは変更できるのか？ できれば進まない。 高さ8.7mが絶対なのかおおい。高すぎる。 8.7mを前提に話し合うのか、変更の余地はあるのか？ 防潮堤の高さどの計画でも低い。安全とは言えない。 高さも幅も現在の計画を飲まざるを得ないと思う。 被災して国道に水が乗ったので、それを防ぐ高さがないと防潮堤の意味がない。 <p>＜河川堤防について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 水門方式にして、河川堤防の計画を止めほしい。 川に大きな堤防を作ると逆に危険な場所になる。 河川堤防はコンクリートなのか？ 堤防の川側の法面はコンクリートでも、反対側は土の堤防にしてほしい。 	<p>■道路について</p> <p>＜道路の大切さについて＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな道路だけでは危険だ。生活道路の計画がわからずイメージできない。 国道の計画が良い。 安心安全な道を作らなければならない。 国道が危険でバスで通学している。安全な道が必要だ。 立派な施設と共に、その施設に道路も重要である。 高台に人を集めるために道路を通すことが大切だ。 <p>＜地区別の要望＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚竜館の前に安心安全な道を通してほしい。 考木の児童が安全に学校に行けるようにしてほしい。 集落から伊里前への連絡道路整備を要望したい。 西光寺から国道につながる道路が重要である。 橋は浸水で壊れ、着上げ等をしないと国道がまた寸断されるので考えてほしい。 平成の森から国道に橋をかけた。 JRが早く計画を示してほしい。 	<p>進め方について</p> <p>■スピード感、焦り</p> <ul style="list-style-type: none"> 防潮堤を早く作ることを優先すべきだ。 漁港の整備に早く手を付けてほしい。 時間がかかると商工として持ちこたえられなくなる。 商店街としては、時間が費用もかかる。 何でもいから早くしてほしい。 今、住い先を一番に優先して考えたい。 まずは生活の安定を図りたい。 今迄以上に時間をかけても中心街にしたい。 <p>■土地の買い上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 土地の買い上げを早くしてほしい。現時点では、他人の土地をイメージしているだけである。 誰も土地を譲らないのではないのか。用地問題が解決しないと進まない。 買い上げられる土地の値段が安い。高くすれば土地の移動は早くなる。 <p>■行政・関係機関に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政に柔軟な対応をしてほしい。非常事態なので特例でも使ってほしい。書類の手続きに時間がかかる。 補助事業に頼っていないのか。 町長、議員、JAなどに町民の思いを伝えたい。 <p>＜今後の進め方＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いの必要性 住民が話し合う場が必要。意見を出してほしい。 様々なビジョンを出して皆で話し合う。 住民の声を反映できるようにする。 子供たちの意見を早く取り入れて話し合いをするべきだ。 一日も早く、国道、商店のあるべき姿を住民で考える。 商業者と漁業者と一緒に計画を進めてほしい。 前地条件を明確にして結論を出す議論をするべき。 いろいろ意見があってもいい。 実現性を頭に入れて進めないと行かない。 歩み寄る。 後世に聞かれるので自分達が残したい町をつくるべきだ。 早く一体感のある計画を作るべきだ。 夢物語で終わらせない方がいい。 町をつくる上で順序を間違えないことは重要だ。 <p>＜決定プロセス＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民が主導する意思決定のできる機関が必要である。 歌津には、協議し決定する組織がない。 <p>（作成：東北圏地域づくりコンソーシアム）</p>
---	--	--

活動の成果・発展

2012年8月に開催した「南三陸町ワークショップ 椿一花咲く町をつくろう」がきっかけとなり、その後「南三陸 椿ものがたり復興」の一連の活動が大きく展開していきました。伊里前地区で4回開催した復興たらこ屋は、賛成・反対様々な立場の町民が一緒に話し合う場としたことにより、互いの考えを知り今後のまちづくりについて話し合うきっかけとなりました。一連の話し合いを経て、伊里前地区全体の復興事業は、「伊里前まちづくり協議会」が地域を代表する組織として検討を行うこととなりました。このように合意形成のプロセス（主体・方法）を明確にしたことも大きな成果でした。

いただいた助成金・補助金等

- ちば元気ファンド 東日本大震災市民活動支援助成金「南三陸町絆再生コミュニティ復興支援事業」（2011～2012年度）
- 公益財団法人トヨタ財団 2012年度国内助成（冬助成）東日本大震災対応「特定課題」助成金「南三陸町町民主体の復興に向けたまちづくり支援事業」（2012～2013年度）
- 公立大学法人宮城大学地域連携センター地域振興事業部「コミュニティ復興支援員設置実証業務」（2011年度）、「宮城大学災害対応支援事業」（2012～2013年度）

ご支援いただきありがとうございました。